

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第121号

令和2年12月8日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

四條畷市制施行50周年記念 特別展「しじょうなわてと楠正行」開催

4回の展示解説に100人を超える参加

アンケート 印象に残った展示NO.1は“四條畷の戦い”

● 注目は小楠公像 ●

四條畷楠正行の会は、11月16日から29日までの2週間、四條畷市市民総合センターのロビー・コミュニティスペースそして展示ホールを使い、四條畷市制施行50周年記念協力事業として「特別展しじょうなわてと楠正行 一四條畷楠正行の会の取り組み成果を中心に」を開催しました。

この特別展では、「小楠公一代記」「正行真筆集」「四條畷合戦要図」「四條畷市小字図」「正行辞世の扉」(拓本)、「正四位下檢非違使兼河内之守楠公碑掛け軸」「朱舜水作楠正行像賛・略解」「楠正行ゆかりの史跡」等43枚のA1パネルを展示しました。

また、特別展示として、「黒岩淡哉作の小楠公像」「小楠公墓所四條畷神社社務所屋根に使用されている逆菊水家紋入り瓦」「清水寺森清範貫主揮毫信海上人の歌色紙」がサプライズ登場となりました。

期間中、平日は展示のみとなりましたが、土・日の4日間はスタ

● 特別展を報じる産経新聞
11月28日付朝刊「北河内版」

産 経 新 聞

令和2年(2020年)11月

正行の生き方感じて

四條畷で特別展 直筆の書など紹介

南北朝時代の武将、楠木正成の長男で、父の「大楠公」に對して「小楠公」と称された正行の直筆や碑文などを集めた特別展「しじょうなわてと楠正行」が、正行ゆかりの四條畷市の市民総合センターで開催されている。入場無料。29日まで。

正行を顕彰する「四條畷楠正行の会」が協力する市制50周年事業の一環。会員らが長年の研究で入手した史資料を、複写などで紹介している。

展示されているのは、河内守・河内国守護として正行が発した直筆の国宣(国務の指令書)や正行が裏書きした建水分神社(千早赤阪村)の扁額、正行の生涯を描いた如意輪寺(奈良県吉野町)の絵葉書など。

同会代表の扇谷昭さん(黒岩)が、国立国会図書館関西館で、江戸時代に來日した明の儒学者、朱舜水の全集の中に発見した正行の功績をたたえる賛文や、府内の事業家から寄贈された彫刻



展示されている小楠公像＝四條畷市市民総合センター

家、黒岩淡哉(明治5年、昭和38年)作の小楠公像も初公開している。

正行と正成は足利氏と戦った南朝の忠臣として親しまれ、ゆかりのある13都府県の62自治体がNHK大河ドラマの誘致や観光で連携を進めている。正行終焉の地となった四條畷市では、正行が小学校の副読本に地域を代表する歴史人物として取り上げられている。同会にも正行関係の情報や史料が各地から寄せられるという。

扇谷さんは「父の遺訓を守り南朝復権のため、若くして散った正行の『忠孝両全』の生き方を感じ取ってほしい」と話している。

29日は午前10時と午後2時から扇谷さんによる展示解説が行われる。

**市内外から
多くの参加**

ップを配置しての展示説明や論文集やかるた、正行像賛扇子等の正行関連資料の販売も行いました。また、日曜日、午前と午後、2日間計4回の扇谷による展示解説も行いました。

この展示解説には、四條畷市内からはもちろんこと、大阪府内や京都府、兵庫県、奈良県等から多くの楠ファンがご参加くださり、1回1時間 10～20分ほどの解説に聞き入っていただきました。ほぼすべての展示パネルと特別展示の解説をしましたが、最終日は扇谷が作詞した「楠正行」を唄わせていただきました。

ご来場いただきました皆様にお礼申し

上げますとともに、期間中、特別展開催に何かとご配慮いただき、ご支援・ご協力いただきました四條畷市立公民館神本館長、森職員、そして公民館指定管理者の職員の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



写真:上 小楠公像の解説を聞く人々
左上から パネル1枚ごとに解説 準備したパネルは43枚
右上から パネル解説を聞く皆さん 熱心に質問される方も

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)